

金融庁金融審議会ワーキンググループ資料

# 起業家精神と産業育成

2013.6.26.

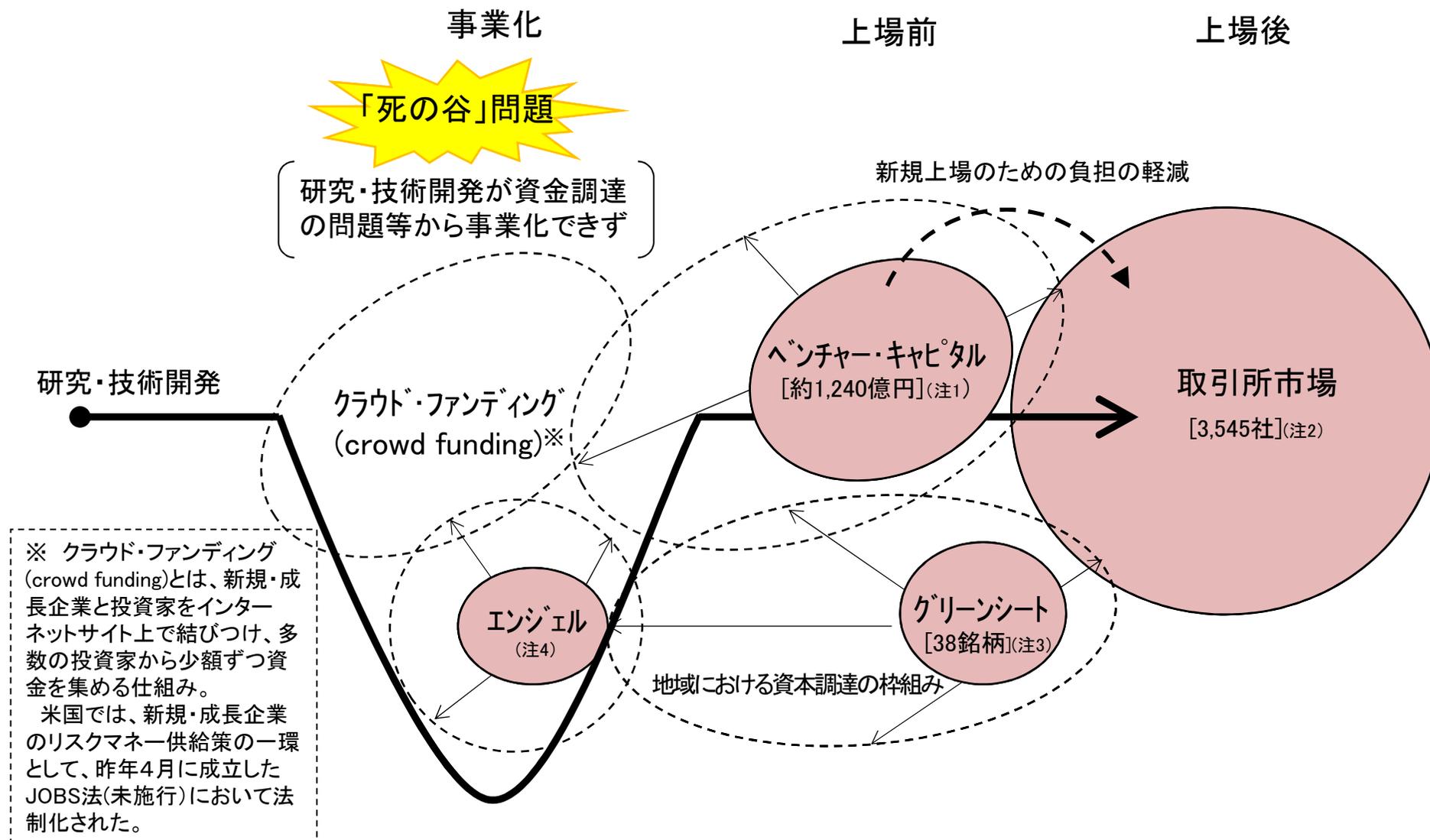
早稲田大学ビジネススクール  
長谷川博和

# 早稲田大学ビジネススクール 教授

---

- 1984年 野村総合研究所  
自動車業界のトップ証券アナリスト
- 1993年 ジャフコ 投資調査部
- 1996年 グローバルベンチャーキャピタル株式会社 設立 社長、  
会長
- 2012年 早稲田大学ビジネススクール教授
- 学術博士(早稲田大学、ベンチャー企業、ベンチャーキャピタル論)  
公認会計士、証券アナリスト、コンサルタント、ベンチャーキャピタリスト
- 京都大学MBA非常勤講師、経済産業省「新事業創出支援者会議」  
委員長、東京都起業家選手権審査委員長
- 大企業の事業創造、ベンチャービジネス、ファミリービジネスを研究
- 早稲田大学「国際ファミリービジネス総合研究所」を2013年4月に設  
立、所長に就任

# 新規・成長企業へのリスクマネーの供給について



(注1)ベンチャー・キャピタル年間投融資額(2012年度)。米国は約2.3兆円(2011年)。

(注2)全国上場会社数(2012年末)。米国はNYSE(US)2,339社、NASDAQ2,577社(2012年末)。

(注3)グリーンシート銘柄数(2012年末)。米国におけるピンクシート登録銘柄数は10,121銘柄(2011年10月末)。

(注4)エンジェル税制を利用した個人投資家の投資額は、約9.9億円(2011年度)。なお、米国におけるエンジェルの年間投資額は、1.5兆円程度といわれている。

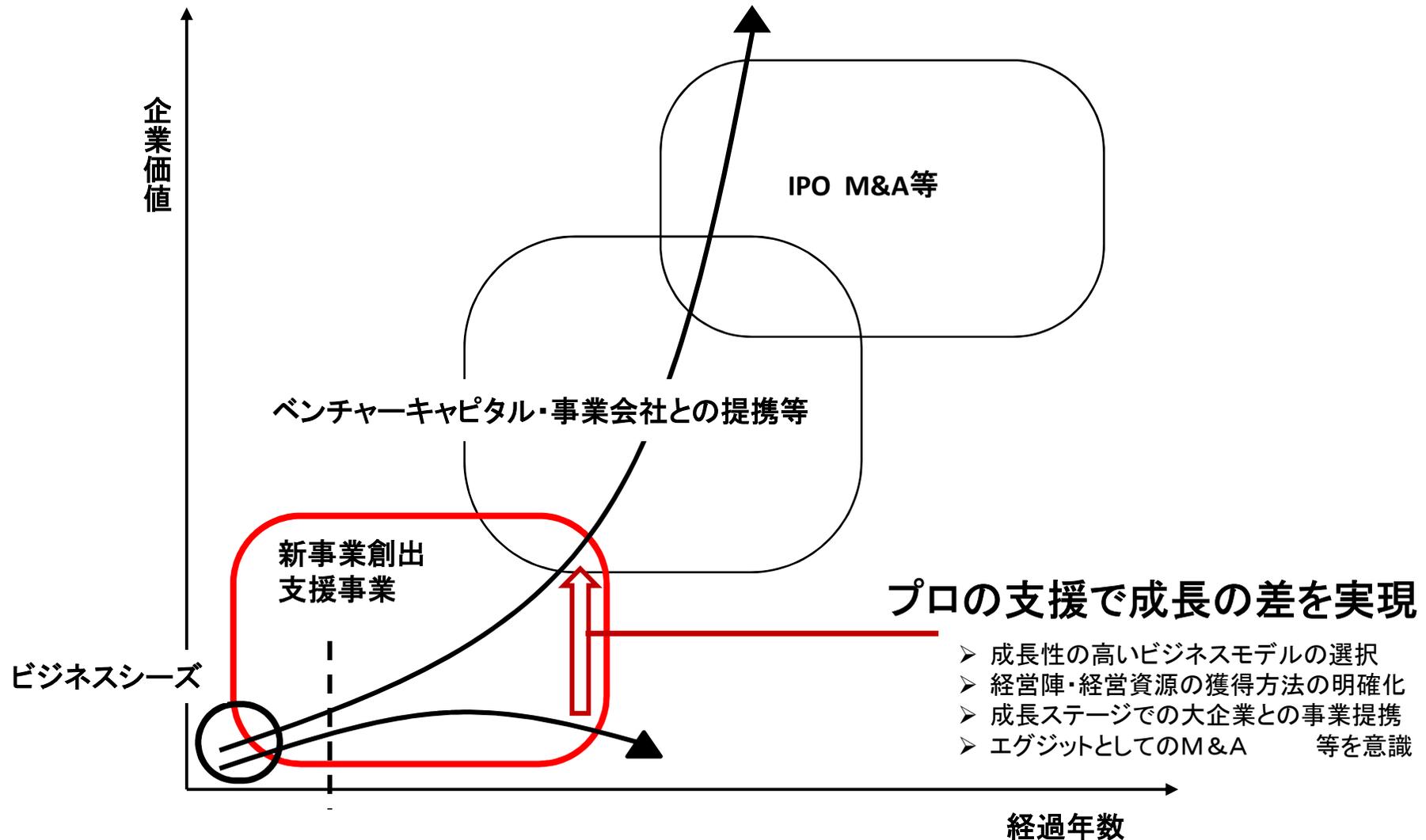
# 仮説

---

- ベンチャー企業のリスクの取り手はVCだけでは無理。エンジェルに加えて、大企業、ファミリービジネスを考えるべき。
- 大手企業にとってグローバル競争下、自前だけで全ての事業開発をするのは無理。
- ベンチャーとの連携もしくはM&Aで事業開発をしたいと本気で思っている。(現状には問題あり)
- 起業家、アーリーVC、ミドルステージVCと事業会社が役割分担してイノベーションを起こす。
- 大手企業は起業家やVCとの連携を求めている。出会いは大切。

# 新事業創出支援事業(伯楽作戦)

初期段階でトップクラスの専門家が支援を実施し、その後の成長ステージに繋げる。

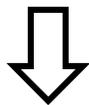


# 新事業創出モデル事業

---

- トップクラスの支援者によるシードステージの支援。  
経営理念・ビジネスモデルの形成、ビジネスプラン策定、経営チーム組成、Proof of Concept、試作品開発、市場調査、テストマーケティング 等
- 1案件当たり2,000万円を上限に政府から費用を供給。  
(外部人材の人件費、試作品開発費、市場調査費等)
- 案件は公募。

従前の助成：役所側が選定



支援者が自ら支援するべく選んだ案件を助成

シーズの掘り起こし、選定から民間のプロの力で

# 新事業創出支援事業の方向性

---

## ■ Open Innovation：異質なものを融合。

大企業とベンチャー

ものづくりとICT 若者と年配者

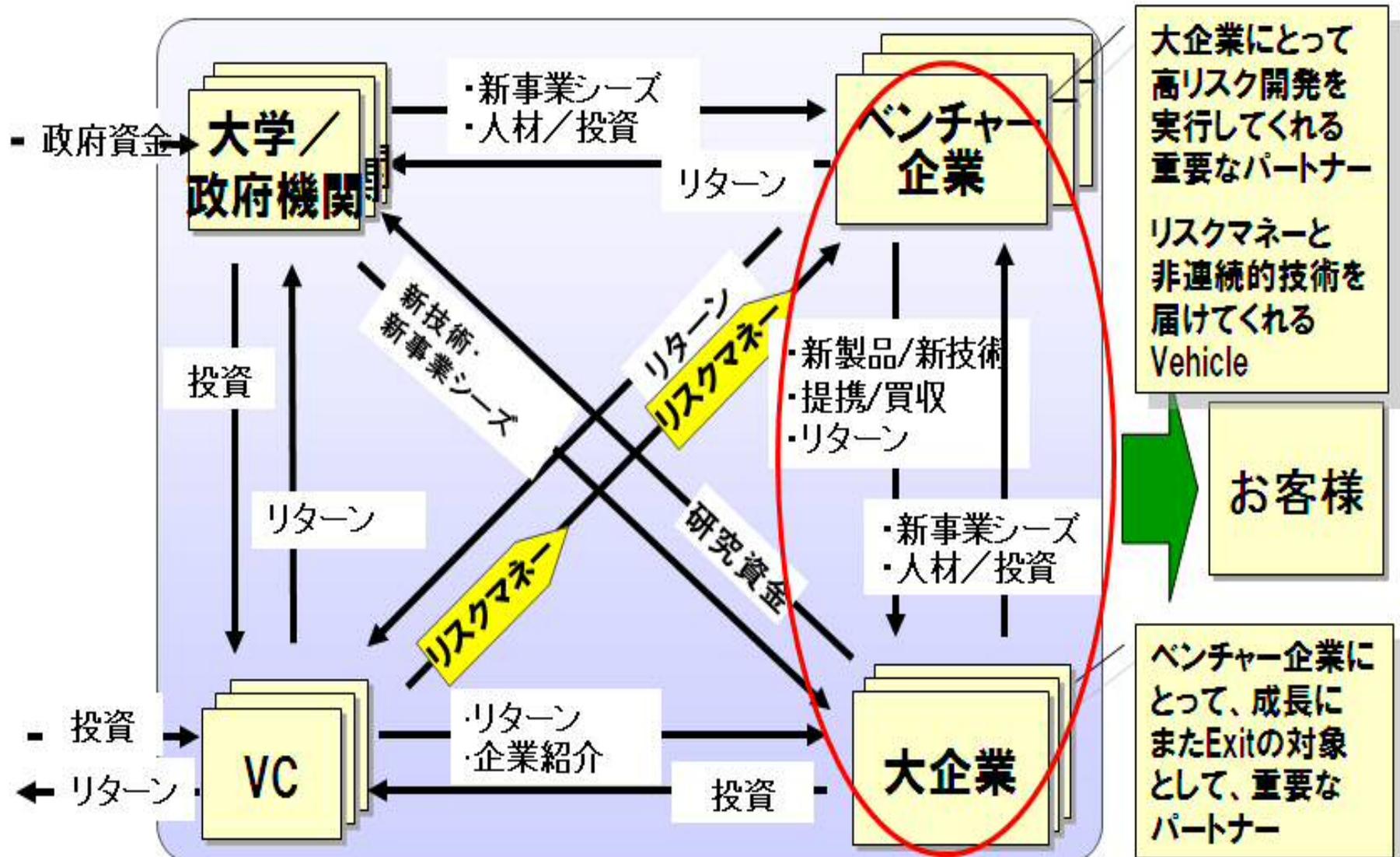
## ■ Scale: 大きな成長を目指す。

新しい価値

新しい市場

## ■ Impact：社会的意義のあるビジネス。

# 大企業がベンチャーを活用してイノベーションを活発化するフレームワーク



出所: 中村 (2008) 「イノベーションの仕組みとしてのコーポレートベンチャリング」 テクノロジーマネジメント 2008 No1

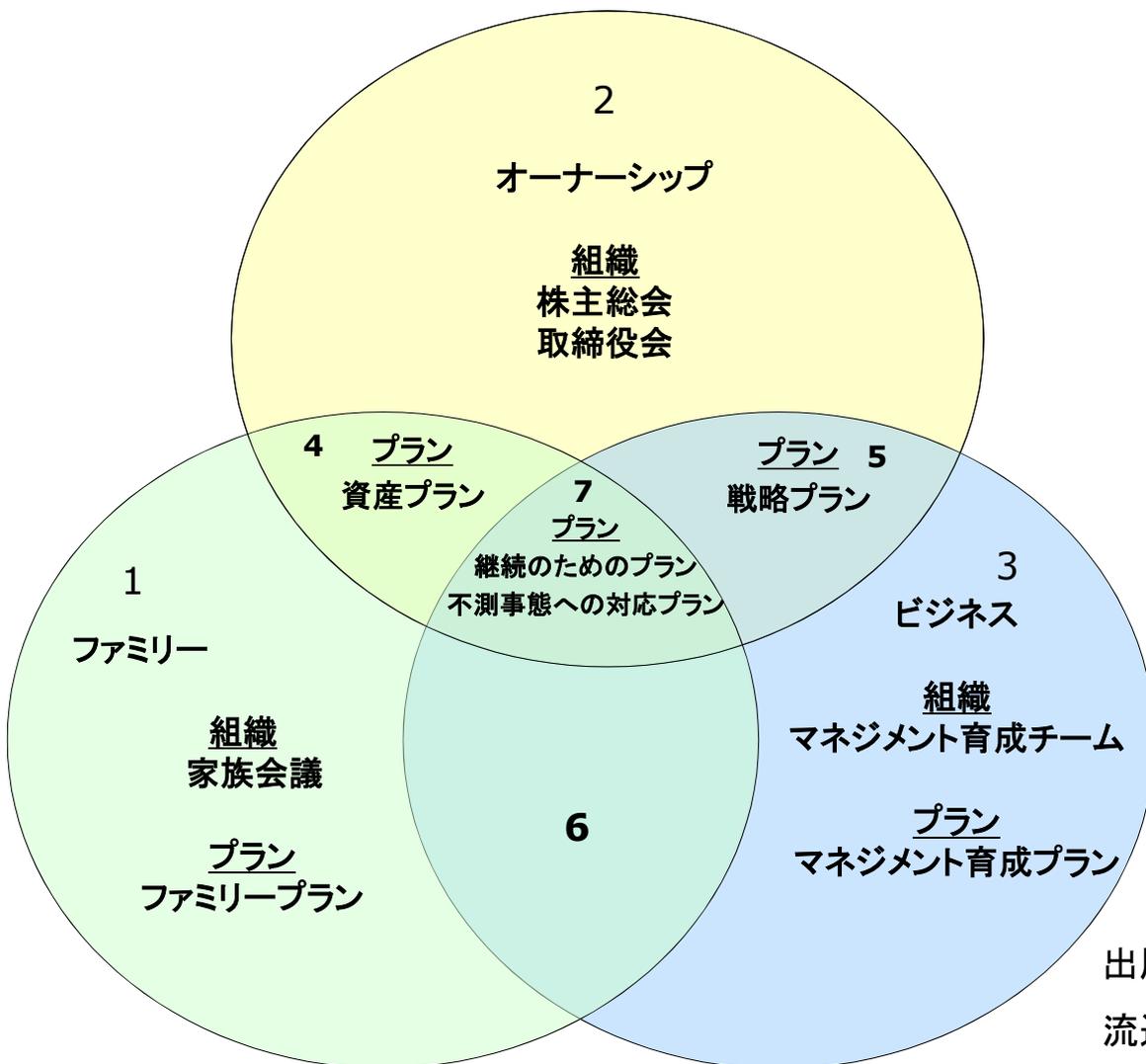
# Fail Fast

---

- 小さく、早く失敗すべき
- 失敗から何を学んだかが大切
- 早く修正する
- ネアカ、忘れ易い、良く眠れる
- 個人保証の撤廃

# ファミリービジネスの活用

## スリー・サークル・モデルにおける組織とプラン



出展:「オーナー経営の存続と継承」  
流通科学大学出版

# M&A市場の活性化

---

- 新規事業セクションのオープン化（CVC等）
- のれん償却負担の軽減・廃止